

銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役

橋本 健一郎



7月の銅の概況及び8月の見通し (3)

■貿易関連指標

◆伸銅品生産

2025年6月の伸銅品生産動向(速報値)によれば、5万8,310トン、前年同月比10.0%増加した。2か月ぶりにプラスに転じた。

2025年6月の伸銅品の生産量は、14品目中12品目が前年同月実績を上回った。今回6月の伸銅メーカーの稼働日が例年よりも多かったのもプラス要因の一つとなっている。

日系の自動車生産の回復、AI関連とデータセンター向けの半導体、スマートフォン向けがプラス要因になっている。一方、スマートフォン以外の家電関係が低調で、エアコンも国内の人手不足がマイナス要因となった。

◆電 線

出荷量 51,000トン(銅量ベース)

前年同月比 +4.6%

8か月ぶりにプラスに転じた。

◆輸 出

電気銅 -19.7% 5万2,993 t

スクラップ +24.8% 3万3,223 t

◆輸 入

電気銅 -88.2% 27 t

スクラップ +79.1% 3万4,079 t

■見通し

◆自動車

6月の自動車生産が+5.2%。7月国内販売台数が前年比-4.2%。

生産台数：米国向け輸出の前倒し効果による7月高生産の反動を受け、8月は前月比で減少傾向が強まる見込み。国内需要に支えられ緩やかな推移か。

販売台数：新型車投入・夏のフェア需要があるため、販売は一定水準を維持すると予想。ただし、EVは不振継続。

◆伸銅品生産

2025年6月の伸銅品生産動向(速報値)によれば、5万8,310トン、前年同月比で10.0%増加した。2か月ぶりにプラスに転じた。年間平均(月平均56,192トン)をベースに、上期の緩やか回復を反映して若干の控え目を想定。

◆電 線

出荷量 51,000トン(銅量ベース)

前年同月比 +4.6%

8か月ぶりにプラスに転じた8月は建設や電気工事の繁忙期とも重なるため、前月より出荷が多くなる可能性もある。

■スクラップ景況予想

8月の銅スクラップ需給では、世界的にやや供給過剰。米国・中国など主要地域では、関税政策の影響により需給に歪みの可能性がある状況。

■LME・為替予想

◆LME予想=強い

在庫逼迫・供給制約：米国以外の地域で供給が逼迫し、供給余力が限られることで、価格上昇圧力が強まる構造。

中央銀行緩和・ドル安期待：FRBの利下げ観測が強まるにつれ、ドル安基調へ転換し、コモディティ価格全般が買われやすい環境。

これらを踏まえた今月の銅価格は、9,800-10,050ドル(セツル)との予想。

◆為替予想

146円~154円

短期的には、米国の経済指標や日本の政治情勢が、市場心理を大きく左右する可能性がある。引き続き最新動向を注視。

銅建値に関しては、147万-159万円程度と予測。



非鉄金属全般

岡田商店

代表 岡田兼典

580-0046

大阪府松原市三宅中4-20-14

電話：072 (289) 8936 (代)

ファクス：072 (289) 8937